科目ナンバリング	G-LAS10 80001 LJ36						
授業科目名<英訳>	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング Critical Thinking on Science, Technology and Society			担当者所属職名・氏名	文学研究科　教授　　伊勢田　哲治		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	木2	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（文学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』および呉羽ほか編『宇宙開発をみんなで議論しよう』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題、特に宇宙開発をめぐる問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、東日本大震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を養成することが目的である。

[到達目標]

・クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CTのいくつかの基本的なテクニックを身につけること
・科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること

[授業計画と内容]

授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。
テキストは以下の１４のテーマを取り上げているが、本授業ではそのうち６つをとりあげ、関連する知識やスキルとあわせて各２回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。

『科学技術をよく考える』

・遺伝子組み換え作物
・喫煙
・血液型性格判断
・地震予知
・動物実験
・脳科学の実用化
・乳がん検診
・地球温暖化
・宇宙科学・技術への公的投資
・原爆投下の是非を論じること自体の正当性

『宇宙開発をみんなで議論しよう』

・有人月探査とロマン
・宇宙技術のデュアルユース
・宇宙の資源開発
・宇宙ゴミ（スペースデブリ）

初回に前半のテーマ３つを決定する。5回目の授業で後半のテーマ３つを決定する。

授業の進行は以下のとおり

イントロダクション(1回）
テーマごとのディスカッション（12回）
まとめとフィードバック(2回）

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)へ続く↓↓↓

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

３分の２以上の出席が単位発行の最低条件となる。
積極的な授業参加による平常点が７０%、提出物の評価が３０%で採点する。

[教科書]

伊勢田哲治ほか編 『科学技術をよく考える　クリティカルシンキング練習帳』（名古屋大学出版会）

呉羽真ほか編 『宇宙開発をみんなで議論しよう』（名古屋大学出版会）

[参考書等]

（参考書）
伊勢田哲治 『倫理思考トレーニング』（ちくま新書）
野矢茂樹 『新版　論理トレーニング』（産業図書）
塚原東吾ほか編 『よくわかる現代科学技術史・STS』（ミネルヴァ書房）

[授業外学修（予習・復習）等]

ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すことがあるのでそれをきちんと行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30 .

[主要授業科目（学部・学科名）]